



研究報告

「ロシア」研究会令和6年度研究報告書

2025-05-28

日本国際問題研究所令和5-7年度外交・安全保障調査研究プロジェクト「日本周辺の主要国の国内要因が国際秩序の変容にもたらす影響」Ⅲ「ロシア」研究会（以下、「ロシア研究会」）では、戦時下のロシア内政を中心に、その対外関係への影響も含めてロシアの政治状況を議論している。

本報告書は、「ロシア研究会」の令和6年度の研究成果報告である。最初の長谷川ペーパーでは、保安関係者（シロヴィキ）の人事を中心に解説がなされている。次の田島ペーパーは、軍に対する統制の制度的変化に触れたうえで、戦争開始後軍の不満が表出したとみられる事件に言及している。3章の鳥飼ペーパーでは、地方知事が中央で閣僚などの要職に就いた事例を紹介し、戦時下の地方エリートの動向を分析している。4章の安達ペーパーは、原子力企業ロスアトムの動向を紹介し、制裁下のロシア経済の一端を明らかにしている。次いで、第5章の油本ペーパーは、故アレクセイ・ナワリヌイの妻であるナワリナヤの活動を紹介し、ロシア国外の反対派が抱える困難を紹介している。対外関係は、6章の大串ペーパーと7章の加藤ペーパーで論じられている。大串ペーパーでは、ロシアの戦争目的を整理し、最近活発になってきた停戦交渉の落としどころを探っている。ロシアの対東アジア（中国と北朝鮮）政策に関しては、加藤ペーパーで論じられる。戦争によってロシアは両国と緊密な関係を構築したが、その内容が紹介される。以上のように、各ペーパーは短いものであるが、中央政治の動向から、地方、反対派、経済動向、さらには対外関係までをカバーしており、現在のロシアの政治状況を広く概観できるようになっている。なお、本報告書はあくまで中間段階の簡略化されたレビューであり、よりまとまった成果は令和7年度の研究会を踏まえて公表される予定になっている。

本報告書に記載された各ペーパーの内容は、それぞれ研究会委員の個人的見解であり、いかなる組織・機関の公式な見解を代表するものではない。

下の各行は、分割したPDFにリンクしてあります。一番下に全文PDFへのリンクがあります。

| | | |
|-----|---|-------|
| 第1章 | <u>ロシア国家中枢の人事政策——パートルシェフ 大統領補佐官の人事発令に着目して</u> | 長谷川雄之 |
| 第2章 | <u>ロシア・ウクライナ戦争下でのロシア政軍関係</u> | 田島理博 |
| 第3章 | <u>戦争中のロシアの知事人事</u> | 鳥飼将雅 |
| 第4章 | <u>対ロ制裁とロシア経済 —原子力分野(ロスアトム)に着目して</u> | 安達祐子 |
| 第5章 | <u>ロシア国外の反体制派—ユリア・ナワリナヤ</u> | 油本真理 |
| 第6章 | <u>停戦への道・講和への道：ロシアとウクライナの 死活的利害と妥協点はどこにあるのか</u> | 大串敦 |
| 第7章 | <u>ロシアと東アジア--転機としての2024年--</u> | 加藤美保子 |